

# 中学生における剣道授業の課題検討

八ヶ代 寛子 (鹿児島大学)

## 1. 目的

本研究では、剣道のイメージについて中学生を対象に剣道の経験者と未経験者の比較、男女間の比較を行い剣道授業における課題を検討することである。

## 2. 方法

- 1) 対象者:鹿児島市内のF中学校第3学年の200名とした。
- 2) 調査方法:生徒の剣道に対するイメージを調査するために質問紙調査を行った。質問項目は、糸岡ら(2011)が用いた調査項目を使用し、全20項目の調査票を作成した。調査票の各項目の回答については、4件法を用いた。
- 3) 分析方法:t検定を用いて剣道の経験者と未経験者、男子生徒と女子生徒で比較を行った。

## 3. 結果と考察

### 1) 剣道経験の有無による差の検討

「①ずるいイメージである」の項目において有意差が認められ、剣道未経験者よりも剣道経験者の方が0.218ポイント高い得点を示していた( $t=2.073$ ,  $df=156$ ,  $p<.05$ ) (図1)。木原ら(1985)は、「運動経験の長さ、運動量といった自己の生活の中で占める剣道の割合とのかかわりが大きく影響を与えている。」と述べている。浅見(1993)は、「日本においては『スポーツが教育手段や企業宣伝の手段としてしか扱われなかったため、スポーツに対する認識が不十分である』と指摘し、『スポーツ=試合結果重視』という捉え方を変える必要性と剣道技術によって楽しむスポーツ剣道」を提案している。本研究において、経験者が未経験者よりも剣道に対してずるいイメージを持っていたのは、運動量の短さにより確かな技術を習得できていないこと、剣道が「スポーツ=試合結果重視」という捉え方でのスポーツになりつつあることが背景にあると考えられる。このことから、限られ

た授業時数の中で生徒たちに技術を身につけさせること、試合結果を重視するのではなく、身につけた技術を試合で使う楽しさや「交剣知愛」といった剣道の精神を学べる授業づくりが必要であると考ええる。

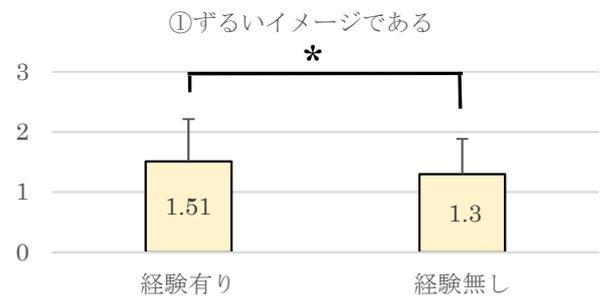


図1 経験者と未経験者の平均値の比較

### 2) 男女差による検討

「④堂々としたイメージである」、「⑨かっこうがよいイメージである」、「⑪すばらしいイメージである」の項目にて有意差が認められ、女子生徒の方が男子生徒よりも高い数値を示した。

また、「⑩痛そうなイメージである」の項目においても有意差が認められ、男子生徒の方が女子生徒よりも高い数値を示した。

## 4. 結論

本研究では、スポーツとしての剣道と武道としての剣道の2つのバランスを図ること、対等性、美容への効果といった剣道の特性を授業に組み込むこと、理論的な説明を行うこと、安全性をより高めていくことが中学生の剣道授業の課題であることが明らかになった。

## 5. 主な参考文献

- 1) 木原資裕, 今井三郎: 剣道に対するイメージについて 武道学研究 Vol. 17 No. 1, 1985